

小平市における
コミュニティ・スクール及び
小平地域教育サポート・ネット事業について

調査報告書

令和4年3月

小平市社会教育委員の会議

目 次

I	はじめに	1
II	調査方法	2
III	学校経営協議会（コミュニティ・スクール）についての調査結果	3
	1 あなたが関わっている学校について	
	2 学校経営協議会の委員について	
	3 学校経営協議会の会議開催方法について	
	4 あなたの学校経営協議会について	
	5 コロナ禍における活動について	
IV	小平地域教育サポート・ネット事業（小学校）についての調査結果	11
	1 あなたが関わっている学校について	
	2 小平地域教育サポート・ネット事業の活動項目について	
	3 小平地域教育サポート・ネット事業に協力して頂いているボランティアについて	
	4 あなたの学校の小平地域教育サポート・ネット事業について	
	5 コロナ禍における活動について	
V	小平地域教育サポート・ネット事業（中学校）についての調査結果	21
	1 あなたが関わっている学校について	
	2 小平地域教育サポート・ネット事業の活動項目について	
	3 小平地域教育サポート・ネット事業に協力して頂いているボランティアについて	
	4 あなたの学校の小平地域教育サポート・ネット事業について	
	5 コロナ禍における活動について	
VI	終わりに	28
VII	資料	29
	【資料1】学校経営協議会（コミュニティ・スクール）に関するアンケート	
	【資料2】小平地域教育サポート・ネット事業に関するアンケート	
	【資料3】自主研究審議経過、令和2年度・令和3年度社会教育委員名簿	

I はじめに

少子高齢化、自然災害、環境問題など、私たちを取り巻く環境が大きく変化して来ています。ソーシャルディスタンス、行動制限、黙食が対話の減少を生み、コロナ禍における人々の関係性が希薄になっています。

子どもたちの学びそして、人格形成に必要な人との関わりの重要性などを考える時、改めて地域と学校が連携・協働していく事が求められています。

しかし2年前から予期せぬ新型コロナウイルス感染症に見舞われ、コミュニティ・スクール*及び小平地域教育サポート・ネット事業**も制限されてきました。

社会教育委員の会議では、この困難な状況下にあるコミュニティ・スクール及び小平地域教育サポート・ネット事業の実態をアンケートによる調査を行い、現状を把握することにしました。

今後もアンケートをもとに、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を一体的に推進し、持続可能な仕組みとして機能していくための方策を研究していきます。

最後にアンケートにご協力頂きました関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

*コミュニティ・スクール（学校経営協議会が設置されている学校）：

地域の教育力を学校教育に生かし「地域に開かれた学校づくり」の推進を目指すものですが、現在コミュニティ・スクールを導入している小学校14校・中学校2校（うち1校は小学校と共に協議会を設置している）では、特色ある学校づくり、多彩で多様な教育活動、地域の団体などと連携を図りながら「地域とともにある学校づくり」を進めています。

※法律上では「学校運営協議会」が設置されている学校をコミュニティ・スクールと称しているが、小平市では、従来の学校経営協力者会議の役割、機能を発展的に受け継ぐことになるため、法律上の「学校運営協議会」を「学校経営協議会」と称している。

**小平地域教育サポート・ネット事業：

小平市では、平成23年に、学校と地域をつなぐ学校支援コーディネーターを全校に配置するに至りました。平成29年、従来の「学校支援地域本部事業」が「地域学校協働活動」として法律に位置付けられ、市では令和2年に「学校支援コーディネーター」から「地域教育コーディネーター」と名称を変更したのを機に、幅広い地域住民等の参加協力を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働しながら様々な活動を行っています。

この活動を支える地域教育コーディネーター（小学校36名、中学校14名）は、各々の学校区の地域特性を生かしながら創意工夫し試行錯誤し、また他校との情報交換を通して多様な活動を進めています。

II 調査方法

1 調査の対象

- ・学校経営協議会（コミュニティ・スクール）
- ・小平地域教育サポート・ネット事業（地域教育コーディネーター）

2 調査期間

- ・令和3年9月

3 アンケート*の配布・回収

- ・学校経営協議会

	配布校	有効回収校	有効回収率
小学校	13校	13校	100%
中学校	2校	1校	50%

- ・小平地域教育サポート・ネット事業

	配布校	有効回収校	有効回収率
小学校	19校	13校	69%
中学校	8校	5校	63%

*アンケート 【資料1・2】 参照

Ⅲ 学校経営協議会（コミュニティ・スクール）についての調査結果

1 あなたが関わっている学校についてうかがいます。

◇回答学校数は14校で、その内、小学校は13校、中学校は1校。

2 学校経営協議会の委員*についてうかがいます。

委員数（人）	平均委員数	最も多かった学校の委員数	最も少なかった学校の委員数
	14	16	9

委員構成

- ・ 地域教育コーディネーター
- ・ 青少年対策地区委員会
- ・ 放課後子ども教室コーディネーター
- ・ 放課後子ども教室支援員
- ・ 授業支援員
- ・ 学習支援員
- ・ 保護者
- ・ P T A
- ・ P T A（元）
- ・ 卒業生
- ・ 同窓会会員
- ・ 中学校長
- ・ 副校長
- ・ 退職教員
- ・ 地域住民
- ・ 自治会長
- ・ 町会幹事
- ・ 環境保全団体員
- ・ 学識経験者
- ・ 地域有識者
- ・ 民生委員児童委員
- ・ 青少年委員
- ・ 都行政経験者
- ・ 学校ボランティア
- ・ 学校パトロール員
- ・ みまもり協力者
- ・ スポーツ団体関係者
- ・ 学童農園協力者
- ・ 地域防災委員
- ・ 公民館長
- ・ 郵便局長
- ・ 保育園園長
- ・ 社会福祉法人施設長
- ・ 社会福祉協議会職員
- ・ 老人ホーム施設長

*学校経営協議会委員の構成員

小平市学校運営協議会規則（一部抜粋）

第5条 委員は、次に掲げる者のうちから委員会**が任命する。

- (1) 対象学校の地域住民(小平市立学校通学区域に関する規則(昭和40年教委規則第4号)第2条に規定する学校の通学区域に住所を有する者をいう。)

- (2) 対象学校の保護者(対象学校に在籍する生徒又は児童の保護者をいう。)
- (3) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第9条の7第1項に規定する地域学校協働活動推進員その他の対象学校の運営に資する活動を行う者
- (4) 前3号に掲げる者のほか、委員会**が適当と認める者

**委員会：小平市教育委員会

3 学校経営協議会の会議開催方法についてうかがいます。

コロナ禍以前

	月1回	左記以外
会議開催頻度(校)	9	4

	平日のみ	左記以外
会議開催日(校)	10	3(注)

(注：3校は平日開催と併せて土曜日も開催している)

	17:00以降	左記以外
会議開催時間(校)	8	5

◇コロナ禍以前においては、会議は月1回、平日の17時以降に開催される学校が多かった。

コロナ禍後

	あり	なし
会議開催方法の変更(校)	5	8
遠隔での会議実施(校)	4	9

◇コロナ禍後、会議の開催回数を減らした学校が2校、開始時間を早めた学校が1校あった。

◇遠隔での会議は、設問への「あり」との回答校4校すべてがZ o o mで実施されていた。

学校経営協議会 (回答校 小学校13校 中学校1校)

1 学校		2 学校経営協議会の委員					3 学校経営協議会の会議開催方法												
小学校	中学校	委員数	委員構成			その他	コロナ禍以前				コロナ禍以後								
			地域教育 コーディネーター	PTA	青少年対		開催時期回数	平日	土曜日	時間帯	変更あり	変更なし	変更ありの場合			遠隔実施			
1	○	16	○	○	○	地域防災、みまもり、社協、授業支援、 民生児童委員、放課後子ども教室、郵便 局長、公民館長、中学校長、副校長	月に1回	○		18:00~19:00	あり		月に1回	○		16:00~17:00			なし
2	○	12	○	○	○	大学教授、民生児童委員、学習支援員、 環境保全団体員、町会幹事	月に1回	○		17:30~		なし							なし
3	○	15	○	○	○	民生児童委員、放課後子どもクラブ、地 域住民、保育園園長、自治会長	月に1回	○		17:30~	あり					出来だけ短縮して30 分~40分で終了に努 めた			
4	○	12	○	○	○	青少年委員、老人ホーム施設長、社会福 祉法人施設長、地域有識者	5回	○	○	11:00~12:00		なし							なし
5	○	15	○	○	○	保護者、学識経験者	月に1回					なし						あり	○
6	○	14	○	○	○	学識経験者、都行政経験者	年間11回	○		18:00~19:00	あり		4月に1回	○	8月 webで講習会 各自参加				なし
7	○	15	○	○	○	民生児童委員、地域住民等	月に1回	○				なし							なし
8	○	12	○	○	○	民生児童委員、放課後子ども教室コー ディネーター、公民館長、地域住民、 保護者、副校長	月に1回	○		14:00~	あり		開催しない月あり					あり	○
9	○	15	○	○	○	自治会、民生児童委員、スポーツ団体、 退職教員、卒業生、学童農園	月に1回	○		17:00~18:00 (16:30~16:45プロ ジェクト熟議)	あり							あり	○
10	○	13	○	○	○	地域住民、中学校校長	月に1回	○	○	午後(月により変更 有、中止の時も有)		なし							なし
11	○	9	○	○	○	民生児童委員、スポーツ団体	月に1回	○		17:30~		なし						あり	○
12	○	15	○	○	○	学校バトロール、学校ボランティア	3ヶ月に1回	○	○	平日:17:00~ 土曜日:8:30~		なし							なし
13	○	13	○			PTA(元)、同窓会、学識経験者、地域 防災代表、副校長	※コロナ禍での設立						月に1回	○	午前				なし
14	○	15	○	○	○		2ヶ月に1回	○		18:00~19:00		なし							なし

(アンケート 回答通り記載)

4 あなたの学校経営協議会についてうかがいます。

【以下の文章は自由記述としているため原文のまま記載】

4-1 特徴：

①協議会の持ち方として、事前に会議を開催して課題の確認と提案の検討等をしている。

- ・学校を中心とした協働について協議。
- ・総務部会（問題点の検討・解決策をさぐる）。
- ・事前に企画会（校長・副校長・担当教員・会長・副会長）をし、当日の課題の確認と新規提案の検討。
- ・校長、副校長を含めて協議会を構成。グループごとに課題をまとめて検討。地域での学童の行動について特に感じたことを話し合う。
- ・学校での問題点を可能な限りで発表してもらい、協議会が共通な事項として理解し意見をかわす。
- ・委員の補充には、レポートを出してもらい選出補充している。
- ・地域で話題になったことで学童に関係している面での情報を協議会が理解し参考にし、役立たせる。

②学校経営協議会として、学校・保護者・地域が一体となって活動している。

- ・学校を支える団体との連携。
- ・地域住民による密接な連携により、地域課題を共有している。
- ・学校・保護者・地域が一体となった活動。
- ・委員の構成が多岐業種の人っていて、片寄っていない。
- ・地域との防災活動の推進。
- ・協議会でプロジェクトを立ち上げ、学校と連携し児童・保護者を支援していく。
- ・中学校地区でコミュニティ・スクールとして、三校で一緒の活動をしている。
- ・学校の応援団として、保護者、地域の方々と連携して、子どもたちにとっての安全で過ごしやすい環境を整えられるよう学校と話し合っ対応している。
- ・学校独自の課題解決に向けて、学力向上・体力向上・健全育成の3つのプロジェクトチームを設置し、具体的な方策について検討及び実施している。また○小CS*・○中CSと合同会議を開催。
- ・未来を担う子供たちの豊かな成長のために、地域全体で取り組み、地域とともにある学校づくりを進め、学校に通う子どもたちのよりよい教育環境を構築しCSの成果へとつなげていく。

*CS：コミュニティ・スクール

4-2 活動内容：

情報の発信、プロジェクトでの活動など多岐にわたる活動が行われている。

- ・学校での問題点を可能な限りで発表してもらい、協議会で委員が共通な事項として理解を深め意見をかわす。
- ・義務教育9年間の基礎となる小学校での学力・体力向上をも目的とした、教育活動のための施策の対応。
- ・子ども一人ひとりにとって居心地のよい場づくり・子どもたちの健全育成のための施策の対応。
- ・本校と距離的に近い小学校と意見交換をし、互いの特徴を学び参考にして、自校の発展に役立たせるようにしている。
- ・研修。夏休みに全教員・CS委員・PTA本部委員を対象に講演・熟議を実施。
- ・CSだより発行（毎月）。
- ・コミュニティカレンダーの発行。

①取り組み

- ・コミュニティ・スクール全国大会に、代表者が参加する等で参考にし、発表になくことにしている。
- ・学期始めの2～3日間、あいさつ運動として校門前で声かけする。
- ・商店街のあいさつフラッグの管理、学校フェンスにつける。
- ・健全育成では「消毒ボランティア」活動。
- ・避難所マニュアル活動では「マニュアル作成の活動」「防災訓練」の活動を行っている。
- ・地域団体と合同の防災訓練。

②プロジェクトを立ち上げ活動している例

例1) 4つのプロジェクトのとりくみを通して実績を積み上げていく。

- ・学力向上プロジェクト（学習支援、ゲストティーチャーの調整 etc）
- ・環境整備プロジェクト（図書ボランティア、園芸ボランティア etc）
- ・家庭連携プロジェクト（各種講演会 etc）
- ・地域連携プロジェクト（子ども見守り隊、防災連絡会との連携 etc）

例2) 3つのプロジェクト…協議会委員と事務局の教員とが協力しプロジェクトを遂行する。

- ・登校支援プロジェクト
- ・学力、体力向上プロジェクト
- ・児童参加型イベントプロジェクト

例3) 4つのプロジェクトチームで活動

- ・学校支援プロジェクト（各種ボランティアの窓口）
- ・地域家庭連携プロジェクト（CSのHPの立ち上げや地域情報の発信）
- ・安全対策プロジェクト（災害時の避難所として機動できるように安全性・機能性考察）
- ・周年事業プロジェクト（〇小創立〇〇周年について計画、運営）

4-3 課題：

人材の確保、地域や他校の学校経営協議会との情報交換ができていない。

- ・人材の確保。
- ・会議のマナー化、委員の長期間(10年以上)、高齢化。
- ・コロナ禍において地域住民、保護者の来校の機会が減り地域住民との交流も減っている状況で、いかに充実した教育活動を実現していくか。
- ・若手教員の参加（CS理解促進）（顔の見える関係づくり）。
- ・他校CSとの情報交換の必要性について。
- ・学校を取り巻く様々な団体と横断的なつながりが取れない。また他校のCS活動の情報が共有できていない。
- ・コミュニティ・スクールの活動費の執行の煩雑さ、もう少し簡単な手順で予算を使えるとよい。
- ・コロナ禍で会議がZoomになっているが、Zoom代金は個人負担になっている。

4-4 気を付けていることなど：

多くの意見を引き出す工夫をしている。

- ・各人が自由に意見を発表できる雰囲気づくりと連帯意識の醸成。
- ・様々な意見が出るので、コミュニケーションをとりながら納得の行くように、話し合いは出来るだけ多くしている。
- ・多くの人の意見を引き出す。
- ・日常の課題の吸い上げ。
- ・多様で特色ある教育活動の展開につながるように、地域住民や保護者など、教職員とは異なる視点から学校経営に参画できるよう声掛けをしている。
- ・必要最小限での協議で終了させる会議への配慮。

5 コロナ禍における活動についてうかがいます。

【以下の文章は自由記述としているため原文のまま記載】

5-1 活動が変化したこと：

対面での活動が出来なくなっているが、Z o o mでの会議などの工夫をしている。

- ・ 集団活動が出来なくなっている。
- ・ 感染防止のため、活動が滞ったり中止になっている。
- ・ 話し合いの場が少なくなった。
- ・ 学校に行く機会が減った。
- ・ コロナ感染に留意しての対応、時間短縮にしての会議。
- ・ 昨年12月より会議がZ o o mになったため、最初は戸惑った。C S活動は変わらない。
- ・ 活動状況や報告などに、I Tを駆使するようになった。
- ・ 活動が止まるということなく積極的に行っている。

5-2 工夫していること：

地域の方々や保護者が、活動に安心して参加できるかを考えて取り組んでいる。

- ・ 三密の回避。
- ・ 席の間隔を取り実施、マスク、窓、出入口開放、消毒液使用、会議は短時間で済ませる。
- ・ 間隔をあけて、透明仕切り板を利用している。
- ・ 開催日の変更。月1火曜18:00~19:00→月1水曜16:00~17:00（働き方も考えて）。
- ・ 校内消毒清掃などは、学校と環境プロジェクトが協力して継続実施中。
- ・ SNSの導入。
- ・ C Sの皆でラインのグループを作り、情報の共有に努めている。
- ・ 情報を共有する際に、紙ベースに加えてメールなどの機能を使うようになった。
- ・ 地域や保護者がどうしたらこの活動に安心して参加できるかを考えている。

5-3 困っていること：

日程の調整や話し合い不足に悩んでいる。

- ・時勢であり困ることはやむを得ないのでは、我慢も時には必要であり、耐える自分の心を育てたいと思っている。
- ・皆（保護者他）が、コロナで心なしか冷え切っている人がいる。
- ・1時間だと十分な議論が出来ない。
- ・多様な意見の吸い上げ不足。
- ・仕事をしている人が多いので、日程調整が難しい。
- ・リモートがスムーズに進まない。
- ・特になしとの回答が4校からあった。

5-4 今後考えられることなど：

出来ることから工夫して少しずつ解決していきたい。

- ・必要最小限での対応、要領よく時間を限定しての実施。
- ・コロナ禍で活動が狭まっているが、できることから少しずつ解決していきたい。
- ・それぞれのPT*活動に、広く地域を巻き込むような活動を考え、実践できればと思っている。
- ・コロナ禍だからではないが、「CSとは…」を保護者等へ周知（会議誌等）する必要がある。
- ・多くの保護者、地域の方々へのアピール方法。
- ・中学区でのCS再編。
- ・対面にこだわらない。ビジネスチャットやZoomでの会議。
- ・コロナ禍が沈静化を見てからの再稼働に、満を持している状況です。
- ・学校経営協議会や保護者など様々な団体が、学校に対してクリティカル・フレンド**として対応していく発想が必要であり、学校経営協議会の役割や機能がさらに明確にしていくと考えられる。

*PT：プロジェクトチーム

**クリティカル・フレンド：「本当にこれで正しいのか」という視点を持って一緒に向き合ってくれる友人

IV 小平地域教育サポート・ネット事業（小学校）についての調査結果

1 あなたが関わっている学校についてうかがいます。

◇回答学校数は、市内 19 校中 13 校。

2 小平地域教育サポート・ネット事業の、活動項目を具体的に教えて下さい。

- ・学習支援ボランティア
- ・図書ボランティア
- ・花と緑のボランティア
- ・地域活動との連携(高齢者施設を中心とした異世代交流)
- ・読み聞かせボランティア
- ・食育ボランティア
- ・昔あそびボランティア
- ・環境支援ボランティア
- ・安全ボランティア
- ・高齢者交流室との連携
- ・お手紙ボランティア(学校だより等を地域の関係者に配布)
- ・お花(花壇)ボランティア
- ・地域交流として「灯りまつり」支援

◇学習支援ボランティア及び図書ボランティアは、全ての回答校で実施されていた。

3 小平地域教育サポート・ネット事業に協力して頂いているボランティアについてうかがいます。

登録者数(人)	平均登録者数	最も多かった学校の登録者数	最も少なかった学校の登録者数
	70	145	20

◇ボランティアの登録者数が 100 人以上の小学校が 4 校あった。

登録者の構成

	男性	女性
登録者数（人）	103	633
構成比	14%	86%

回答校 11校

	おおよそ 60 歳未満	おおよそ 60 歳以上
登録者数（人）	713	136
構成比	84%	16%

回答校 12校

	保護者	地域住民	その他
登録者数（人）	652	144	10
構成比	81%	18%	1%

回答校 12校

◇登録者の構成では、「女性」、「おおよそ 60 歳未満」、「保護者」がいずれも 80%以上を占めている。

【以下の文章は自由記述としているため原文のまま記載】

3-1 募集の方法：

ボランティア募集は、年度始め、学期始めなどに手紙、パンフレット、スクールメールなどで募集。

- ・年度始めに全保護者へ紙ベースとメールとで募集。
- ・年度始めに活動内容を記載した登録用紙を配付し、保護者会で協力を呼び掛ける。
- ・「通信」というお便りを配布し活動内容と募集案内のお知らせ。
- ・毎年4月中に「学校支援ボランティア登録について」のお手紙を配布、各ボランティアの活動内容や保険、ボランティア活動時の手順・注意事項などを記載して募集する。
- ・学期に1回程度「ボランティア便り」を配布、経過報告や追加募集などを掲載し、登録は年間を通して受け付け、確認の意味もあり毎年提出してもらう。
- ・チラシ配布、学校の一斉メール、口コミ。
- ・紙面でのお知らせ配布（保護者向け家庭数）（配布したことをスクールメールでも配信）。
- ・地域に向けての個別依頼（人数が不足している場合は、保護者に向けてスクールメールで追加募集）。
- ・地域の方々へは、活動している方からの口コミ声掛けで募集。

- ・手紙（紙ベース） 11件
- ・スクールメール 5件
- ・保護者会 3件
- ・ロコミ 3件
- ・パンフレット 2件
- ・学年だより 1件

3-2 課題：

ボランティア登録者数の減少、募集の仕方などが課題である。

- ・ボランティアの確保。特にこの3～4年ボランティアをしてくださる方が減っている。
- ・登録者数の減少。
- ・保護者の人の協力は大きいですが、地域の力をとりこむにはどうしたら良いかが課題。
- ・新規人材の開拓には苦勞している。
- ・新規ボランティアの参加が、ロコミや知り合いのつてで多様性に欠ける。
- ・保護者は働いている方が多いため、平日の授業支援は大体同じメンバーになりがち。
- ・ボランティアに熱心な方はPTA役員になり、その為ボランティアを辞退する傾向がある。
- ・コロナの流行でほぼ活動が出来ていないため、特に1～2年生の保護者へのアプローチが出来ない。知っている方にボランティアについて話しても実際の活動が見えづらいので「よく分からない」といわれてしまいがち。
- ・働いている方が年々増えているせいか、ボランティアの人数が集まらなくなっているため、どうやったら人数が集まるかが課題。
- ・保護者の立場で参加した方が毎年1～2名、お子様が卒業後も継続して参加している。この数をもう少し増やすことが課題。
- ・朝の見守り支援は超高齢者の方が多く、後継者が見つからず困っている。
- ・ボランティア養成講座に集まりが少ない…リモートで検討する。

3-3 気を付けていることなど：

活動の際は、なるべく無理なく出来る事を楽しく活動していただくように心掛けています。活動中に知りえたことなど、個人情報について気を付けています。

- ・活動の際は、なるべく無理なく出来る事を。楽しく活動していただくように。
- ・ボランティアに登録したから毎回参加しなければと思う方がいるので自分が「出来るときに出来ることを」を伝え、参加できる時に来ていただくと助かりますと案内する。
- ・強制と思われないように、またあまり負担に感じないように楽しんで活動していただけるように心がけている。
- ・楽しくかつスムーズに参加してもらえるように、事前準備をしっかりする。

- 集合したボランティアを待たせないため、段取りを学校としっかり打ち合わせておく。何をやるのか明確に伝え、ボランティア（特に初心者）が迷わず、安心して活動できるようにする。
- 「参加してよかった」と思って帰宅してもらえるように、スムーズな活動を目指しリピーターを期待する。
- 予定が立てやすいように、活動日時や内容は出来るだけ早くメールで連絡している。負担感の無いように事前に出欠を聞かない。
- どのようなボランティアをしたくて参加希望してくれているのかをきちんと把握して、支援内容と合うようにマッチングさせること。
- コロナ禍なので、特に学校との連絡を密にとり、ボランティアにきちんと伝えること。
- 個人情報に関すること（活動中に知りえたことを漏らさないなど）。
- 連絡先などの個人情報の取り扱い方など。

小平地域教育サポート・ネット事業（小学校）（回答校 19校中13校）

1 学校	2 活動項目					3 ボランティア								
						性別		年齢		構成				
	学習支援 ボラン ティア	環境支援 ボラン ティア	図書ボラ ンティア	安全ボラ ンティア	その他	総登録者数	男性	女性	60歳未満	60歳以上	保護者	地域住民	その他	備考
1	○	○	○	○	花と緑のボランティア	20	7	13	13	7	10	10		
2	○	○	○		地域活動との連携（高齢者施設を中心とした異世代交流） 高齢者交流室との連携	44	3	41	41	3	36	8		地域住民8人は、卒業生の高校生・大学生
3	○	○	○	○		56	0	56	56	0	55	1		
4	○	○	○	○	読み聞かせボランティア、お手紙ボランティア（学校だより等を地域の関係者に配布）	44	4	40	36	8	26	18		
5	○		○		お花（花壇）ボランティア	57	1	56			50	7		
6	○	○	○	○		100	15	85	90	10	90	10		
7	○	○	○	○		100			60	40				登録制ではない。PTAの参加により増減あり
8	○	○	○	○	食育ボランティア、地域交流として「灯りまつり」支援	145	20	125	130	15	115	30		
9	○		○			約70			約70		約70	※約5		地域住民5人位は、見守り活動等
10	○	○	○			38	1	37	38		38			
11	○	○	○	○	昔あそびボランティア	100	40	60	70	30	60	30	10	
12	○	○	○			42	2	40	34	8	27	15		
13	○	○	○	○		90	10	80	75	15	75	15		

（アンケート 回答通り記載）

4 あなたの学校の小平地域教育サポート・ネット事業についてうかがいます。

【以下の文章は自由記述としているため原文のまま記載】

4-1 特徴：

学校と連携をとりながら様々なボランティア活動に取り組んでいる。それぞれの活動には協力者の登録があり、また先生・学校からの支援依頼も継続している。

- ・「〇小支援ネット」という名称で、各学年2名ずつの学年コーディネーターを含む計12人のコーディネーターを中心としたネットワーク体制で活動している。その中にはCSメンバーにも参加してもらい、学校とCSと保護者そして地域住民をつなぐ役割をしている。
- ・月一回、校長先生・副校長先生・学校支援担当教諭・コーディネーターで打ち合わせを実施している。各教員からの要望等を担当教諭がとりまとめ、打ち合わせの時に提示しボランティアの活動につなげている。4月には一年間を見通した計画を立てている。
- ・学習支援については、先生方の意向をよく理解して参加してくださる方にお伝えして、ご協力して頂けたらよいと思っている。
- ・環境整備の支援は、主に保護者をお願いしており、保護者間の交流の場にもなっている。
- ・ボランティアは、今年からベルマーク・お花植え・図書環境整備・読み聞かせ・授業支援の活動にそれぞれチーフを立てて活動している。
- ・学校敷地内に設置された高齢者交流室との交流と連携。
- ・高齢者交流室はじめ近隣の高齢者施設を中心とした異世代交流の地域の取り組みとの連携。
- ・子どもたちが喜んでもらえるような物を使ったり、また学んだ技術を家でも活用してもらえる様な活動を心がけている。
- ・歴史ある学校なので、地域との結びつきも深く学校支援においては、ゲストティーチャーとしてお話を頂くことが多い。
- ・事業が始まったころに比べると、現在はさまざまなボランティア活動に取り組んでいる。それぞれの活動に協力者の登録があり、また、先生・学校からの支援依頼も継続して受けている。
- ・ボランティアの新規開拓やスキルアップのための講座。

4-2 特に力を入れていることなど：

学校と密な連携をとりながら、強制ではなく無理なく活動を進める。

- ・環境整備の支援については、コーディネーター・ボランティアの意見・アイデアなど、学校に提案できる事が多いので、その意見をすいあげ実現化に力を入れている。

- ・学校支援（環境・図書等）ボランティア体制の再構築を、コミュニティ・スクールの学校支援プロジェクトを中心に一緒に進める。
- ・基礎学力定着のための手だてとして、放課後子ども教室と連携して学習の場の設定を本年度から始めようとしている。
- ・地域参画型授業をどの学年でも積極的に取り入れるようにしているため、より多くの大人の目で、安全見守りやサポートができるようにし、学習意欲の向上につなげている。
- ・各学年ごとに様々な支援があるため、学年ごとに2名ずつ担当コーディネーターを配置し、担当教員と密に連携を図るとともに、コーディネーター間での情報共有をすることでより広い支援要請ができる体制をとっている。
- ・できることを出来るときにする。
- ・強制ではなく、無理なく事業を進める。

①具体的な活動

- ・毎月1回ベルマークの集計をし、子どもたちが使用するものと交換している（ミニキーボード等）。
- ・各所花壇の整備。
- ・中央廊下の壁面を季節ごとに模様替え。
- ・図書修理講座、本の読み聞かせ講座、花の寄せ植え講座などボランティア活動に結び付く講座の実施。
- ・環境面に関する活動…園芸、消毒作業や、安全見守り。

4-3 課題：

新たな地域人材の発掘と継続的に支援してくれるボランティアの増員が課題。またコーディネーターを引き継いでくれる人材の声かけが難しく交代がなかなかできていない。

- ・人材の発掘。
- ・学校支援に入る際、自分だけの子供だけではなく全体的に見守ってサポートしていけるボランティアを、そしてコーディネーターを引き継いでくれる人材を発掘し声掛けしていくこと。
- ・コーディネーターの役割を共有して、世代交代に繋げていくこと。
- ・通年活動しているボランティア（図書・花・清掃）の継続の不安。
- ・ボランティア活動の周知・理解と、登録者を増やしていくこと。
- ・新規登録人数の減少…対面で紹介する機会がない。
- ・ボランティアの人数が年々へっていること。
- ・校内のボランティア代表者との情報共有のビジネスチャット等のツールを活用したい。
- ・コロナでボランティアを広く募集できない場合の進め方。

- ・コロナ禍により年度当初の計画通りにできない。
- ・児童数の増加、コロナ対応により空き教室が無くなり、活動場所の確保が困難になっている。
- ・コロナ禍のため、読み聞かせが出来ない。

4-4 気を付けていることなど：

楽しくボランティア活動ができる雰囲気づくり、自分でできる活動として無理強いしないよう心掛けている。

- ・ボランティア募集をする場合、伝達経路が一本化できるよう、学校と密に連絡をとりボランティアが混乱しないようにする。
- ・学校の意向を聴いて内容や方向性を打ち合わせているが、ボランティアの思いも尊重するようにしている。
- ・ボランティアが目標を持ち、楽しくまた活動してよかったと思えるようコミュニケーションを密にし、不満などをそのままにしないよう努めている。
- ・継続して活動してもらえよう「無理のない範囲で」をモットーにしつつ、楽しく活動できる雰囲気づくりそして活動後には情報交換（おしゃべり）ができる時間を設ける。
- ・ボランティア同志のコミュニケーション。
- ・各ボランティアには気持ちよく参加できるよう気を付けている。
- ・自分で選べる活動として無理強いをしないように声かけ。
- ・要望や苦情などがあれば聞き取って、可能なものは対応（学校との相談もあり）。
- ・活動参加者に対して感謝の気持ちを忘れないこと。

5 コロナ禍における活動についてうかがいます。

【以下の文章は自由記述としているため原文のまま記載】

5-1 活動が変化したこと：

継続した活動ができなくなった。特に子どもたちと接触するような支援はほとんど中止となっている。

- ・そもそも活動がほとんど出来ていない。
- ・コロナ禍で校内でのサポート・ネット講座の実施や、ボランティア活動も思うようにできない。
- ・ボランティアを広く募集できないので、人手を多く必要とするものがない。
- ・高齢の方などはさらに心配とのことで、朝の見守りはこの一年半の間休止している。
- ・新たな支援としては、消毒作業、タブレット関連、プール授業の見守り等。

- ・学習支援ボランティアについては、全体での募集ではなく、必要な学年にのみ手紙を配布して募集した。
- ・児童に直接かかわる内容のものは（家庭科等）感染の状況により人数を調整、中止等の対応をした。
- ・活動減によるコミュニケーション不足。
- ・二学期以降の活動になり、参加者は半減した。結果的に密にならず少人数でよかったが、コロナ対応で空き教室がなくなり活動する場がなくなった。
- ・ボランティア養成講座は、集まらないのでできるよう個人の作業として工夫して行った。
- ・地域のボランティア募集については、コロナ感染状況も踏まえて、限定した活動のみを募集している。
- ・新たな人材発掘がしにくくなっている。
- ・大々的に募集を掛けられず、思うように作業が進まない。
- ・募集をかけて人を集めても中止になることが多い。
- ・Lineや電話でのやり取りが増え、打ち合わせも気軽に出来ないため「雑談の中からアイデアが生まれる」ような機会が減ったように思う。

5-2 工夫していること：

コロナ禍で活動が制限された状況下でも今できることを工夫して、ボランティア活動を実施している。

- ・活動の有無を出来るだけ早く、ボランティアの方々に周知している。
- ・活動の回数を減らし、活動の際は出来るだけ密を避け感染対策に注意を払っている。
- ・図書ボランティアは、しおり作りなど在宅ワーク出来る内容にしている。
- ・子供とかかわらないでもできる活動を取り入れた（授業前日のミシンの調整など道具や器具の準備）。
- ・子どもとの接触がない環境支援などは変わらず活動するようにし、その他にも今できることを学校側に提案し、やれることはやるようにしている。
例）手洗い場の定期的な洗浄作業、オリ・パラを盛り上げるための国旗クイズ
掲示
- ・絵本の読み聞かせは投影機を使い、飛沫に注意しながら実施。
- ・読み聞かせを録画して放送を通して行う（計画中）。

5-3 困っていること：

コロナ禍のなか、活動が中止になり、ボランティア募集することを躊躇してしまう。

- ・今までのように学校側と直接話し合うことができない。

- ・募集をかけて人を集めても中止になることが多い。
- ・予定しているイベントが中止になること。
- ・人材発掘。
- ・大々的に募集を掛けられず、思うように作業が進まない。
- ・ボランティア活動が少なくなり、経験者のスキルを未経験者に伝える機会が減っている（特に図書メンテナンス・花壇メンテナンス）。
- ・ボランティア参加への気持ちの維持（保護者）に不安がある。
- ・子どもとの交流を楽しみにしている方が、やり甲斐をなくしてしまった。
- ・今までのようにボランティアが皆で集まる活動の場がないため、ボランティア間の連携や、関係作りがなかなかできない。
- ・以前のように、ボランティア活動に参加するために来校し、併せて学校や子どもたちの様子を見ることができたり、同学年・他学年の保護者同士の情報交換をしたりする場がなくなり、不安を抱える保護者もいるのではないかと思う。
- ・今までは家庭科（裁縫やミシンなど）ボランティアの存在があり、先生の説明がより子どもたちに伝わって、できるようになることも多くあったが、ボランティアが入れない状況もあり、子どもたちの満足度や定着度が気になる。
- ・子どもたちへいろんな世代との交流や、サポートしてもらった場面が減り、コミュニケーション力や挨拶などが減っている気がする。

5-4 今後考えられることなど：

活動やボランティアについての様々な変化に対して、必要に応じた対応を検討・実施していくことが求められる。

- ・図書…図書館協力員と連携を密に取り、長年ボランティアに参加してきた人と協力して初心者でもわかるような手引きを作る。
- ・卒業後も声かけるひとりとして、つながりを持つ。地域の協力者をふやす。
- ・コーディネーターとしての活動はなかなかできないなか、再開した時に今までと同じ支援ができるか不安。
- ・コロナ禍終息後の活動再開にあたり、コロナによって中断していた活動の中には「なくても大丈夫なのでは？」という意見が出て再開しづらくなるという危惧がある。
- ・学校（先生方）とコーディネーター間の情報共有や信頼関係を持つ場が減り、円滑な支援体制が難しくなる。
- ・感染者が減ってきているもののいつ増加するか分からないので、日々様子を見ながら予定を組み臨機応変に対応できるようにしておく。
- ・コミュニティ・スクールとの連携は大切。
- ・子どもたちの様々な体験授業や校外での学習の機会が激減し、多世代ボランティアとの交流もなくなり「地域にひらかれた〇〇小」という姿がうすれてしまう。

V 小平地域教育サポート・ネット事業（中学校）についての調査結果

1 あなたが関わっている学校についてうかがいます。

◇回答学校数は、市内8校中5校。

2 小平地域教育サポート・ネット事業の、活動項目を具体的に教えて下さい。

- ・学習支援ボランティア
- ・図書ボランティア
- ・キャリア教育
- ・放課後学習教室運営
- ・環境支援ボランティア
- ・花ボランティア
- ・英語検定ボランティア

◇図書ボランティアは、全ての回答校で実施されていた。

3 小平地域教育サポート・ネット事業に協力して頂いているボランティアについてうかがいます。

登録者数（人）	平均登録者数	最も多かった 学校の登録者数	最も少なかった 学校の登録者数
	35	58	10

◇ボランティアの登録者数が50人以上の中学校が2校あった。

登録者の構成

	男性	女性
登録者数（人）	27	147
構成比	16%	84%

回答校 5校

	おおよそ 60 歳未満	おおよそ 60 歳以上
登録者数（人）	120	54
構成比	69%	31%

回答校 5校

	保護者	地域住民	その他
登録者数（人）	111	54	9（注）
構成比	64%	31%	5%

回答校 5校 （注：9人は、学生ボランティア）

◇登録者の性別構成では、「女性」が80%以上を占めている。

◇登録者の年齢別構成及び所属別構成では、「おおよそ60歳未満」、「保護者」がいずれも60%以上を占めている。

【以下の文章は自由記述としているため原文のまま記載】

3-1 募集の方法：

ボランティア募集は、お便り、声掛け、パンフレットを利用して行われている。

- ・毎年4月に「学校支援ボランティアについて」の手紙を全世帯に配布、活動内容や保険、活動時の手順・注意事項などを記載して募集する。
- ・校内で年度初めにプリントを配布して登録してもらう。
- ・新入生保護者会の時にボランティア登録のお知らせを行う。
- ・生徒を通じてお便りで募集。
- ・年度末に直接の声かけ。

3-2 課題：

ボランティア登録者数の減少、募集の仕方、ボランティアする動機について等が課題である。令和3年度は特に1年生保護者を中心に登録数が増えた学校もあった。

- ・毎年、登録人数が少なく、実働人数もさらに少ない。
- ・紙ベースでの募集を続けるか、メールでの募集にきりかえた方が良いのか迷っている。
- ・手紙が保護者の手元に届いていない場合もあると思われるので、配布や周知方法の工夫が必要かもしれない。
- ・相手の動機が事前にわからないことがある。
- ・本人と受け入れ先のニーズのすれちがい。
- ・長期でボランティア活動をしてもらうために（卒業するまでではなく）やりがいや楽しみを感じてもらう。
- ・ここ数年は、登録者数が大幅に減少していたが、令和3年度は特に1年生保護者を中心に登録数が増えた。

3-3 気を付けていることなど：

ボランティアが負担にならず楽しく活動してもらえる様に、心掛けている。

- ・ボランティアのできることやりたいことと現場のニーズのマッチング。
- ・負担にならず、楽しく活動してもらえる様に時間や回数を多くせず、何人かのボランティアと組んで活動する。
- ・登録票が確実にコーディネーターに届くようにすること（紛失のないよう）。

小平地域教育サポート・ネット事業（中学校） （回答校 8校中5校）

1 学校	2 活動項目					3 ボランティア								
						性別		年齢		構成				
	学習支援ボランティア	課外支援ボランティア	図書ボランティア	安全ボランティア	その他	総登録者数	男性	女性	60歳未満	60歳以上	保護者	地域住民	その他	備考
1	○		○		花ボランティア	58	2	56	58		48	10		
2	○	○	○			18	1	9	8	2	8	2		
3	○		○		キャリア教育	52	22	30	6	46	26	26		
4	○	○	○			40	2	38	38	2	19	12	9	その他3人は、学生ボランティア
5		○	○		英語検定ボランティア 放課後学習教室運営	14	0	14	10	4	10	4		

（アンケート 回答通り記載）

4 あなたの学校の小平地域教育サポート・ネット事業についてうかがいます。

【以下の文章は自由記述としているため原文のまま記載】

4-1 特徴：

学校と協調・協働し、教育活動のニーズに合った活動をしている。

- ・生徒さんの在学中だけでなく、卒業後もボランティア活動に協力してくださる方が多い。
- ・ボランティアさん自らの発案で行う活動も多い。
- ・学校と協調・協働して取り組む。
- ・教育活動のニーズにマッチングを大切にしている。
- ・ボランティアの方と一緒に子どもたちの学校生活に彩りを与えられるように、校内の美化や図書室の装飾を行ったり、図書カウンターのお手伝いで生徒たちとのふれあいの場になっている。
- ・環境支援（園芸）や図書ボランティアの活動を長年継続している。放課後学習教室は、毎週水曜と定期考査前1週間、および長期休み中に実施しており、ほかにも先生方主導による補充教室も行われてきている。

4-2 特に力を入れていることなど：

学校からの要請による授業サポート、図書や園芸ボランティアなどの活動。

- ・学習支援ボランティア…見守りだけでなくそれぞれの生徒への声掛けやきめ細かな補助。
- ・図書ボランティア…開館補助、支援学級での読み聞かせ。
- ・園芸ボランティア・校内美化。
- ・学校からの要請による授業サポート。

4-3 課題：

ボランティア活動の周知、関心を持ち参加してもらえる様な方法などが課題である。

- ・ボランティア活動の保護者への周知と参加協力者を増やすような呼びかけ方法。
- ・多くの方にボランティア活動を知ってもらうことと、関心を持ち参加に導くこと。
- ・ボランティアスキルアップの為の講習会がなかなかできていないので開催していきたい。
- ・放課後学習教室の学習支援員を増やしていくことと、各学年の先生方との連携。

4-4 気を付けていることなど：

ボランティア活動が負担にならないように心掛けている。

- ・ボランティアさんの意見もできるだけ取り入れ活動環境を整える。
- ・サポートしてくださる方の負担にならないようスケジュール等の管理。
- ・負担を感じないように、回数や時間が増えないようにしている。
- ・授業の妨げにならないようサポートすること。

5 コロナ禍における活動についてうかがいます。

【以下の文章は自由記述としているため原文のまま記載】

5-1 活動が変化したこと：

コロナ禍で活動が制限された。オンラインを利用した活動も行っている。

- ・大勢で活動できない。
- ・顔合わせの集まりもできない。
- ・活動場所が少なくなった。
- ・集まっての作業等がしにくくなった。
- ・コロナの影響で学校公開時受付や、特別支援学級のボランティアが出来なくなった。
- ・大勢で集まれないのでボランティアの交流会が出来なくなった。
- ・集まって開催していた園芸や図書の講座は、個々に作業方法などを伝えて行ってもらう形とした。
- ・体験型→オンライン型。
- ・登録者が増えた令和3年度は、新たな募集や講座の手紙配布は行わず、登録者のみに詳細をメールで連絡。

5-2 工夫していること：

感染予防対策をとりながらの活動、やりがいや達成感を感じてもらえるように配慮している。

- ・感染対策をとりながら出来る活動を続ける（図書、読み聞かせなど）。
- ・図書ボランティアの制作など、各自家でできる活動を考える。
- ・学校と密に連絡をとりあう。
- ・少人数での短時間の活動にしている。
- ・ボランティアに参加する際、コロナ禍での注意事項（マスク・検温など）も含めて知らせている。

- ・園芸作業や夏休みの水やり当番、昼休み図書室の開室の手伝い等、活動の内容を丁寧に伝えて行ってもらい、個人の作業でもやりがいや達成感を感じてもらえるように配慮する。
- ・直接的な体験から比べるとオンラインは間接的になる。その違いをどのように対応するか。

5-3 困っていること：

登録していただいていたのに活動が一度もできていないものもある。交流の機会がない。

- ・全体で集まらない。交流の機会がない。
- ・ボランティア同志の横のつながりが絶たれている。
- ・ボランティア登録していただいていたのに活動が一度もできていないものもある。
- ・家庭科や美術の授業支援を行っていたが、直接授業に入るボランティアは今の状況では難しいと思っている。また、地域の人材に、ボランティア活動に携わってもらうような働きかけも内容によっては難しい。

5-4 今後考えられることなど：

ボランティアに対する関心が薄れ、登録者が集まらないのではと心配している。

- ・できそうなことを少しずつ学校と相談しながら取り組んでいく。
- ・登録してくださる方も少なくなるのではないかと心配している。こちらからもコロナ禍で声をかけづらい部分がある。

VI 終わりに

今回の自主研究では小平市内で増えつつあるコミュニティ・スクール及び小平地域教育サポート・ネット事業についてその現状を当事者へのアンケート調査により聞き取ることとしたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が起こったため、その影響についても併せて調査する事とした。小平市社会教育委員の会議も感染拡大による影響を受け、自主研究もメール審議やZ o o m会議を活用し、対面での打ち合わせは最小限として行わざるを得ず、他の社会教育団体が直面している問題にも期せずして対峙する必要があった。

今回はコミュニティ・スクール及び小平地域教育サポート・ネット事業についての調査を行うことに留め、それにより浮かび上がってくる課題やそれへの対応については今後の自主研究課題として実施できればと考えている。

最後に、コロナ禍において様々な問題を日々解決しながら小平市の教育活動の一翼を担って頂いているコミュニティ・スクール及び小平地域教育サポート・ネット事業関係者の皆様、ご協力を頂いた小平市教育委員会地域学習支援課、同指導課に感謝申し上げます。

Ⅶ 資料

【資料 1】

コミュニティ・スクール(CS)に関するアンケートへの ご協力のお願ひ

関係者各位

平素より小平市の教育へのご理解ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

小平市社会教育委員(注 1)の会議では、コミュニティ・スクール(CS)の担い手であり、日頃、学校や子どもたちのために活動されている皆様から忌憚のないご意見をうかがうためアンケート調査をさせて頂き、その分析を通してこれら事業の推進・改善へ向けて研究することに致しました。併せて、コロナ禍でのご苦勞についてもおうかがいし、今後の参考にさせて頂きたく存じます。

このアンケート調査は、CSに関わる活動の現状をおうかがいし、研究することを目的に実施するものです。お答えいただいた内容は、個人情報に関する法令及びその他の規範を順守し、結果は統計的に処理されますので、ご迷惑をおかけすることは一切ございません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

(注 1) 社会教育委員は、社会教育法及び小平市社会教育委員条例の規定に基づき置かれている。その職務は、社会教育に関する諸計画を立案すること、教育委員会の諮問に対し意見を述べることのほか、これらの職務を行うために必要な研究調査を行うこととされ、社会教育に関し、教育委員会に助言する諮問機関としての性格を持つ附属機関である。

(条例定数 15 人以内、現員数 10 人、任期 2 年)

令和 3 年 9 月

小平市教育委員会 社会教育委員の会議

議長 井戸 雅子

自主研究 座長 横澤 正世

【アンケート記入にあたってのお願い】

記入後のアンケートは、9 月 30 日(木)までに、学校交換便もしくは Fax にて下記までお送りください。メールでの返信ご希望の方は、下記のメールアドレスまでお問い合わせください。また、ご不明な点につきましても下記にお問い合わせください。

小平市教育委員会 教育部

地域学習支援課 生涯学習担当

電話：042-346-9574

Fax：042-346-9578

E-mail: chiikigakushushien@city.kodaira.lg.jp

4. あなたの学校経営協議会についてうかがいます。記述でお答え下さい。

特徴：

活動内容：

課題：

気を付けていることなど：

5. コロナ禍においての活動についてうかがいます。記述でお答え下さい。

活動が変化したこと：

工夫していること：

困っていること：

今後考えられることなど：

以上で終了です。ご協力頂きありがとうございました。

【資料 2】

小平地域教育サポート・ネット事業に関するアンケートへのご協力をお願い

関係者各位

平素より小平市の教育へのご理解ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

小平市社会教育委員(注 1)の会議では、小平地域教育サポート・ネット事業の担い手であり、日頃、学校や子どもたちのために活動されている皆様から忌憚のないご意見をうかがうためアンケート調査をさせて頂き、その分析を通してこれら事業の推進・改善へ向けて研究をすることに致しました。併せて、コロナ禍でのご苦勞についてもおうかがいし、今後の参考にさせて頂きたく存じます。

このアンケート調査は、小平地域教育サポート・ネット事業に関わる活動の現状をおうかがいし、研究することを目的に実施するものです。お答えいただいた内容は、個人情報に関する法令及びその他の規範を順守し、結果は統計的に処理されますので、ご迷惑をおかけすることは一切ございません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

(注 1) 社会教育委員は、社会教育法及び小平市社会教育委員条例の規定に基づき置かれている。その職務は、社会教育に関する諸計画を立案すること、教育委員会の諮問に対し意見を述べることのほか、これらの職務を行うために必要な研究調査を行うこととされ、社会教育に関し、教育委員会に助言する諮問機関としての性格を持つ附属機関である。

(条例定数 15 人以内、現員数 10 人、任期 2 年)

令和 3 年 9 月

小平市教育委員会 社会教育委員の会議

議長 井戸 雅子

自主研究 座長 横澤 正世

【アンケート記入にあたってのお願い】

記入後のアンケートは、9 月 30 日(木)までに、学校交換便もしくは Fax にて下記までお送りください。メールでの返信ご希望の方は、下記のメールアドレスまでお問い合わせください。また、ご不明な点につきましても下記にお問い合わせください。

小平市教育委員会 教育部

地域学習支援課 生涯学習担当

電話：042-346-9574

Fax：042-346-9578

E-mail: chiikigakushushien@city.kodaira.lg.jp

課題：

気を付けていることなど：

4. あなたの学校の小平地域教育サポート・ネット事業についてうかがいます。記述でお答え下さい。

特徴：

特に力を入れていることなど：

課題：

気を付けていることなど：

5. コロナ禍における活動についてうかがいます。記述でお答え下さい。

活動が変化したこと：

工夫していること：

困っていること：

今後考えられることなど：

以上で終了です。ご協力頂きありがとうございました。

【資料3】

○小平市社会教育委員の会議 自主研究審議経過

回数	開催年月日	内容
1回	令和2年6月18日	座長決定、研究テーマ検討
2回	令和2年8月18日	資料確認、研究テーマ検討
3回	令和2年10月22日	資料確認、意見交換
4回	令和2年12月17日	資料確認、意見交換
5回	令和3年2月16日	資料確認、意見交換
6回	令和3年4月13日	資料確認、意見交換
7回	令和3年6月15日	アンケート作成内容検討
8回	令和3年8月19日	アンケート作成内容検討
9回	令和3年10月21日	アンケート結果検討
10回	令和3年12月16日	意見交換、報告書たたき台検討
11回	令和3年12月23日	意見交換、報告書たたき台検討
12回	令和4年1月13日	報告書まとめに向けた討議
13回	令和4年2月17日	報告書まとめに向けた討議

○令和2年度・令和3年度社会教育委員名簿（五十音順）

（令和2年4月1日～令和4年3月31日）

生尾 光（自主研究副座長）

井戸 雅子

海老名 要一

大杉 和美

北村 明美

小林 裕子

瀧野 早苗

長澤 力

宮崎 淳

横澤 正世（自主研究座長）

小平市社会教育委員の会議
令和2年度・令和3年度自主研究報告書（令和4年3月）
小平市におけるコミュニティ・スクール及び
小平地域教育サポート・ネット事業について 調査報告書

発行 小平市教育委員会教育部地域学習支援課
〒187-8701
東京都小平市小川町2-1333
電話 (042) 346-9574 (直通)

